

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	韓 雪 (カン ユキ)
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科 博士後期課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本心理学会第 85 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	韓雪・長谷川智子・外山紀子
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	新型コロナウイルス感染症に伴う日本と中国の園の食事調査
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界中の人々の生活を激変させた。食事場面は飛沫感染リスクが高いため、大きな影響を受けた。本研究の目的は、感染拡大によって日本と中国の幼稚園・保育園の昼食場面がどのような影響を受けたかを質問紙調査によって明らかにすることである。</p> <p>【方法】 日本の幼稚園・保育園 500 施設に質問紙を郵送し 192 部回収した (回収率 38.4%)。中国の幼稚園 128 施設に質問紙を郵送し 4 部回収した (回収率 3.1%)。あわせてオンライン版の回答を求め 197 部回収した。有効回答数は日本 192 部、中国 179 部であった。</p> <p>【結果と考察】 日本でも中国でも昼食時間の短縮、テーブルの配置変更などの対策がとられていた。日本は食事中的コミュニケーション、食育活動を重視していることから、中国より感染症の影響が大きかった。一方、中国では、保育者が子どもに摂食を促す機会の減少がみられた。幼児期の食事観について園を分類し、食事実践との関連性を検討したが、顕著な結果は示されなかった。このことは、パンデミックという未曾有の危機的状況において園独自の考え方が実践に入り込む余地がなかったことを示唆している。</p>	

※無断転載禁止